

拒絶理由通知書

特許出願の番号	平成11年 特許願 第318361号
起案日	平成15年12月17日
特許庁審査官	佐竹 政彦 2911 2M00
特許出願人代理人	高野 明近 (外 2名) 様
適用条文	第29条第2項、第29条の2、第36条、第37条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

*理由1：

この出願は、下記の点で特許法第37条に規定する要件を満たしていない。

記

請求項1-4に記載される発明と、それ以外の請求項に記載される発明との間に、共通する本願出願時未解決の課題はないから、両発明は特許法第37条第1号の関係を満たさない。

また、請求項1-4に記載される発明と、それ以外の請求項に記載される発明との間に、共通する解決しようとする課題に対応した新規な発明特定事項である主要部は存在せず、上記両発明は、特許法第37条第2号の関係を満たさない。

さらに、各発明は、特許法第37条第3号、第4号、第5号に規定する関係のいずれを満たすものとも認められない。

この出願は特許法第37条の規定に違反しているので、請求項1-4以外の請求項に係る発明については同法37条以外の要件についての審査を行っていない。

*理由2：

この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記

請求項1-4に記載の発明において、「光成分」が何を示すのか不明瞭である（「光成分」としては、偏光方向、波長などが考えられるがどれを指すのかが不明である）。

請求項1-4に記載の発明において、「エタンデュ」が何を示すのか不明瞭である。このパラメータが明瞭であると言うためには、このパラメータが当業者に慣用されていることを示すか、あるいはこの特殊パラメータ以外には発明を適切に特定できないことを示す必要があるので留意されたい。（詳しくは、審査基準第1部第1章2.2.2(4)(注3)、2.2.2.1(6)(3)「発明の範囲が不明確とされる例」などを参照）

請求項1-4に記載の発明には、「他の光成分と異なって偏光された少なくとも1つの光成分を分離できる光学アレイ」という、機能・特性により物を特定する事項が含まれているが、当業者が、出願時の技術常識を考慮しても、当該機能・特性を有する具体的な物を想定できないので、発明の範囲は不明確である。（詳しくは、審査基準第1部第1章2.2.2.1(6)を参照）

よって、請求項1-4に係る発明は明確でない。

*理由3:

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の記事に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項 1-4
- ・引用文献等 1
- ・備考 引例1に記載の発明における「光源10」と「ライトバルブ141-143」の光路間に存在する光学系は、本願発明における「偏光変換器」を構成しているものと認められる。

エタンデュは当業者の設計的事項である。

- ・請求項 1-4
- ・引用文献等 2

・備考 引例2に記載の発明における「130」と「250, 252, 254」の光路間に存在する光学系は、本願発明における「偏光変換器」を構成しているものと認められる。

エタンドュは当業者の設計的事項である。

・請求項 1-4

・引用文献等 3

・備考 引例3の図1、図3における「13」と「4, 6, 8」の光路間に存在する光学系は、本願発明における「偏光変換器」を構成しているものと認められる。

エタンドュは当業者の設計的事項である。

・請求項 1-4

・引用文献等 4

・備考 引例4に記載の発明における「16」及び「17」は、本願発明における「偏光変換器」を構成しているものと認められる。

エタンドュは当業者の設計的事項である。

*理由4:

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願の日前の特許出願であって、その出願後に出願公開がされた下記の特許出願の願書に最初に添付された明細書又は図面に記載された発明と同一であり、しかも、この出願の発明者がその出願前の特許出願に係る上記の発明をした者と同一ではなく、またこの出願の時に於いて、その出願人が上記特許出願の出願人と同一でもないのに、特許法第29条の2の規定により、特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

・請求項 1-4

・引用文献等 5

・備考 先願明細書5に記載の発明における「光学ユニット7」は、本願発明における「偏光変換器」を構成しているものと認められる。

エタンドュは当業者の設計上の微差である。

・請求項 1-4

・引用文献等 6

・備考 先願明細書6に記載の発明における「色分解素子」は、本願発明におけ

る「偏光変換器」を構成しているものと認められる。

エタンデュは当業者の設計上の微差である。

- ・請求項 1-4
- ・引用文献等 7
- ・備考 先願明細書7に記載の発明における「特定波長域偏光変換装置13」は、本願発明における「偏光変換器」を構成しているものと認められる。
エタンデュは当業者の設計上の微差である。

- ・請求項 1-4
- ・引用文献等 8
- ・備考 先願明細書8に記載の発明における「色分離素子36」は、本願発明における「偏光変換器」を構成しているものと認められる。
エタンデュは当業者の設計上の微差である。

- ・請求項 1-4
- ・引用文献等 9
- ・備考 先願明細書9に記載の発明における「ダイクロイック偏光ビームスプリッタ201」は、本願発明における「偏光変換器」を構成しているものと認められる。
エタンデュは当業者の設計上の微差である。

- ・請求項 1-4
- ・引用文献等 10
- ・備考 先願明細書10に記載の発明における「青透過緑赤反射ダイクロイックミラー101」は、本願発明における「偏光変換器」を構成しているものと認められる。
エタンデュは当業者の設計上の微差である。

- ・請求項 1-4
- ・引用文献等 11
- ・備考 先願明細書11に記載の発明における「狭帯域PBS」、「狭帯域位相差板」(図3、5参照)は、本願発明における「偏光変換器」を構成しているものと認められる。
エタンデュは当業者の設計上の微差である。

- ・請求項 1-4
- ・引用文献等 12
- ・備考 先願明細書12に記載の発明における「52」及び「54」は、本願発

エタンデュは当業者の設計上の微差である。

- ・請求項 1 - 4
- ・引用文献等 1 3
- ・備考 先願明細書 1 3 の図 2 に記載の発明において、「2」と「BS」の光路間に存在する光学系は、本願発明における「偏光変換器」を構成しているものと認められる。

エタンデュは当業者の設計上の微差である。

1. 特開平07-218909号公報
2. 特開平10-186548号公報
3. 特開平03-202846号公報
4. 特開平03-046692号公報
5. 特願平10-188350号 (特開2000-019455号)
6. 特願平10-190620号 (特開2000-019326号)
7. 特願平10-351283号 (特開2000-180792号)
8. 特願平11-0074376号 (特開2000-267046号)
9. 特願平10-077377号 (特開平11-271893号)
10. 特願平10-107574号 (特開平11-305189号)
11. 特願平10-138149号 (特開平11-326861号)
12. 特願平11-257867号 (特開2000-147656号)
13. 特願平10-066683号 (特開平11-264953号)

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 I P C第7版 G03B 21／00－21／30
 G02B 27／28

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許庁特許審査第一部ナノ光学(ナノ物理) 佐竹政彦

TEL 03-3581-1101 内線3272~3274